

琴浦町男女共同参画意識調査 結果報告書(概要版)



人と町がつながる
コトウライフ
KOTOURA LIFE

1. 調査の目的

この調査は、琴浦町における男女共同参画社会の実現を目指す「第3次琴浦町男女共同参画プラン」の策定と、今後の男女共同参画推進の基礎資料とすることを目的とした。

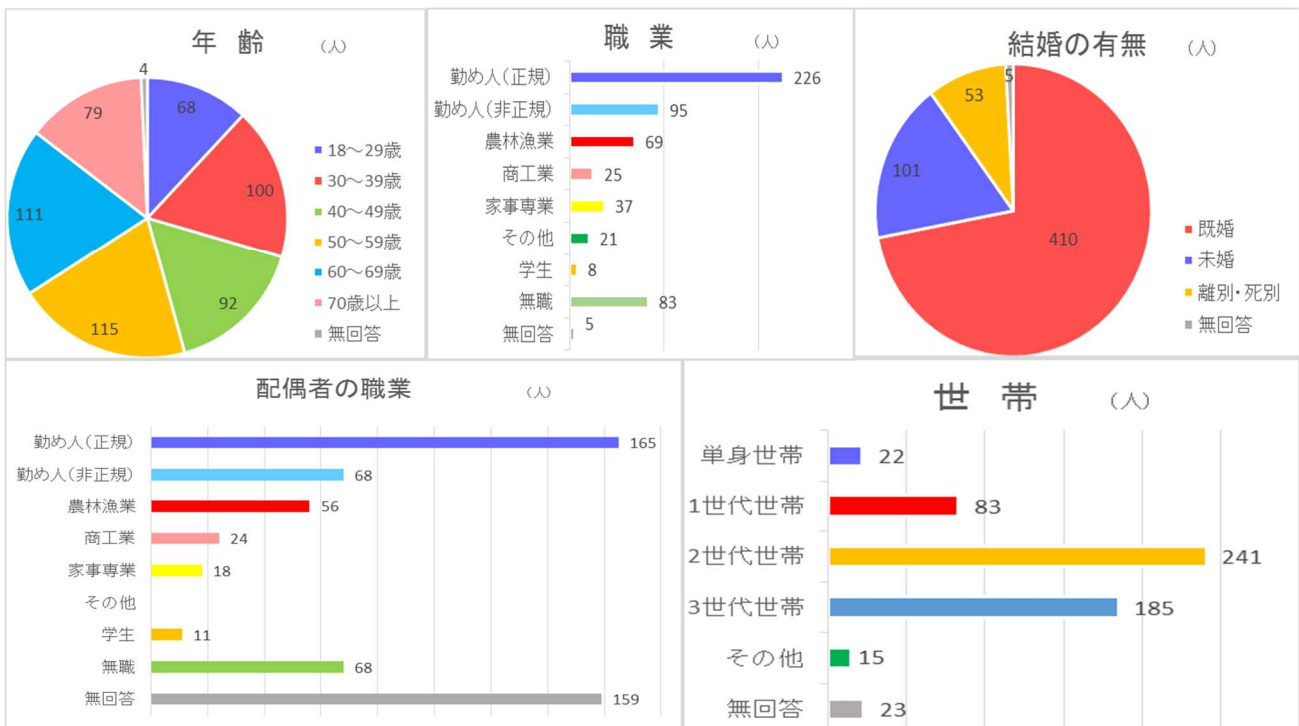
2. 調査の方法

調査対象 18歳以上の町民2,000人(平成28年10月時点 人口割)

調査期間 平成28年11月1日～平成28年12月13日

3. 回収結果 回収数 569人(回収率 28.5%)

男性		女性		性別不明	
人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
258人	45.4%	288人	50.6%	23人	4.0%



□男女平等・男女共同参画について

◆この10年間の間に大きく進んでいること

- 「家事」「育児」「学校教育」「仕事」「社会全体」の男女平等が大きく進んでいる。
- 特に「育児」が男女平等が進んでいる割合が大きく、「介護」は男女平等が進んでいないと感じる人が多い。
- 30代は「育児」、60代は「学校教育」、70代は「地域活動」が、男女平等が特に進んできていると感じており、60代以上は「社会全体」が大きく進んでいると感じている。

◆男女平等について

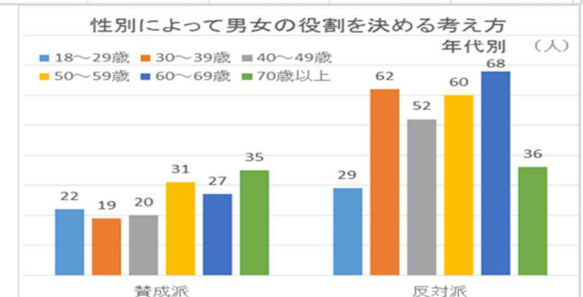
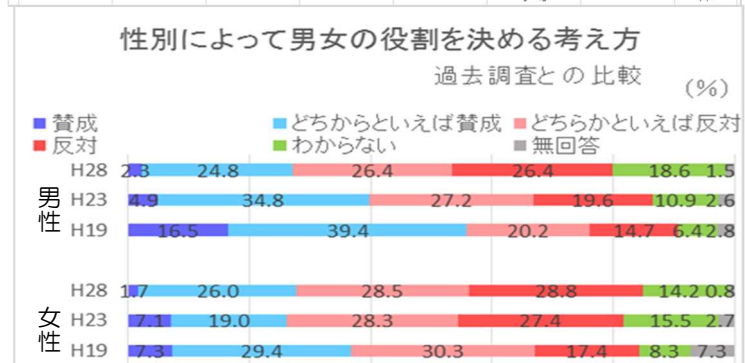
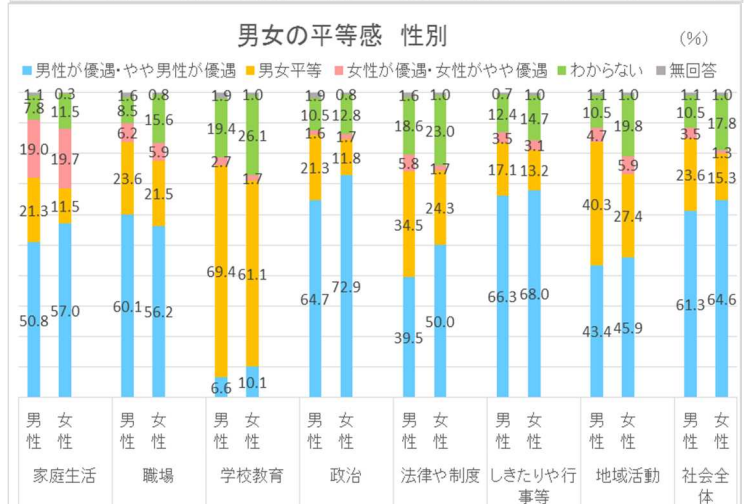
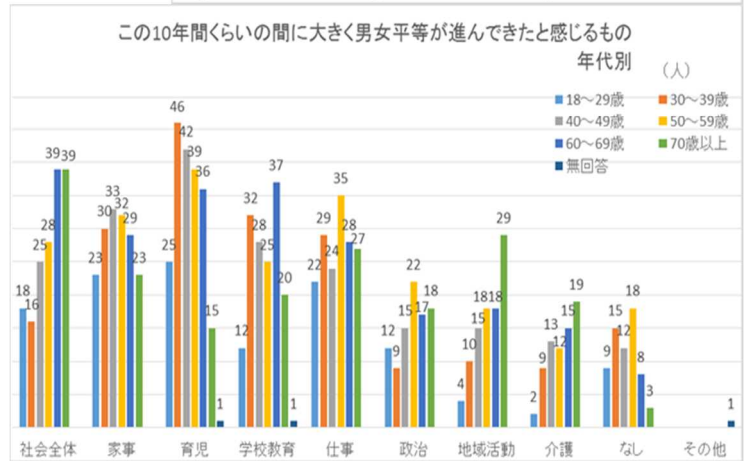
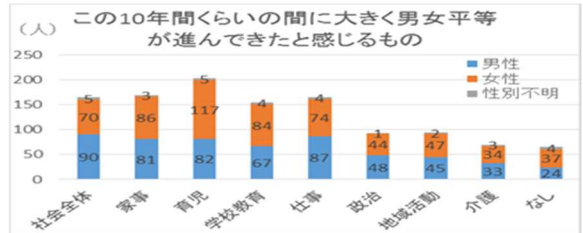
- 「学校教育」は6割以上が男女平等と感じている。
- 「家庭生活」「職場」「政治」「法律や制度」「しきたりや行事」「地域活動」「社会全体」は男性が優遇されていると感じる人が多い。
- 特に「政治」「しきたりや行事」「社会全体」は6割以上となっている。

◆性別によって男女の役割を決める考え方について

- 年々「反対派」が増えており、特に男性は平成19年度に行った調査から17%以上増えている。
- 「反対派」は18～20代が特に低く、次いで70代が低い。

◆社会の様々な分野で男女がもっと平等になるために

- 「男女を取り巻く様々な偏見や、性別による仕事の考えを改める」が男女ともに強く求められており、その他「女性の就業や社会参加の支援・サービスの充実」「女性差別につながる法律や制度の見直し」「女性の知識・技術習得をさせる等」等についても重要である。



□仕事について

◆女性が仕事を辞めなければならない原因

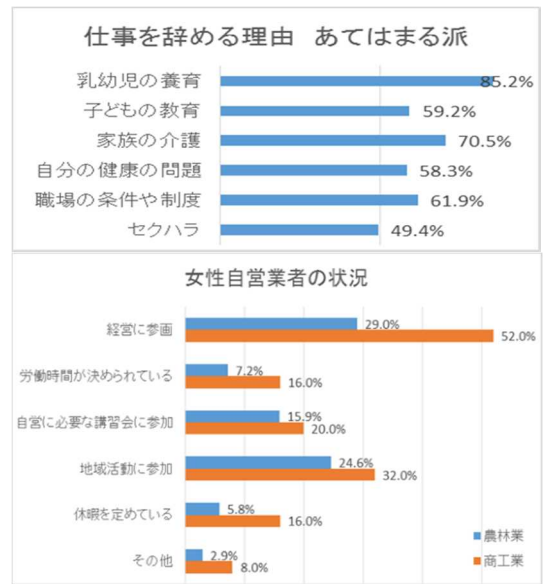
- 「乳幼児の養育」が8割以上、「家族の介護」が7割以上、「子どもの教育」「自分の健康の問題」「職場の条件や制度」は5割以上の方が原因としている。

◆自営業の女性の参画

- 商工業は5割以上の女性が「経営に参画」、3割以上が「地域活動に参加」している。
- 農林業は「経営に参画」している女性は約3割で、全体的に商工業より女性の参画率が低い。

◆女性が仕事を続けていくために

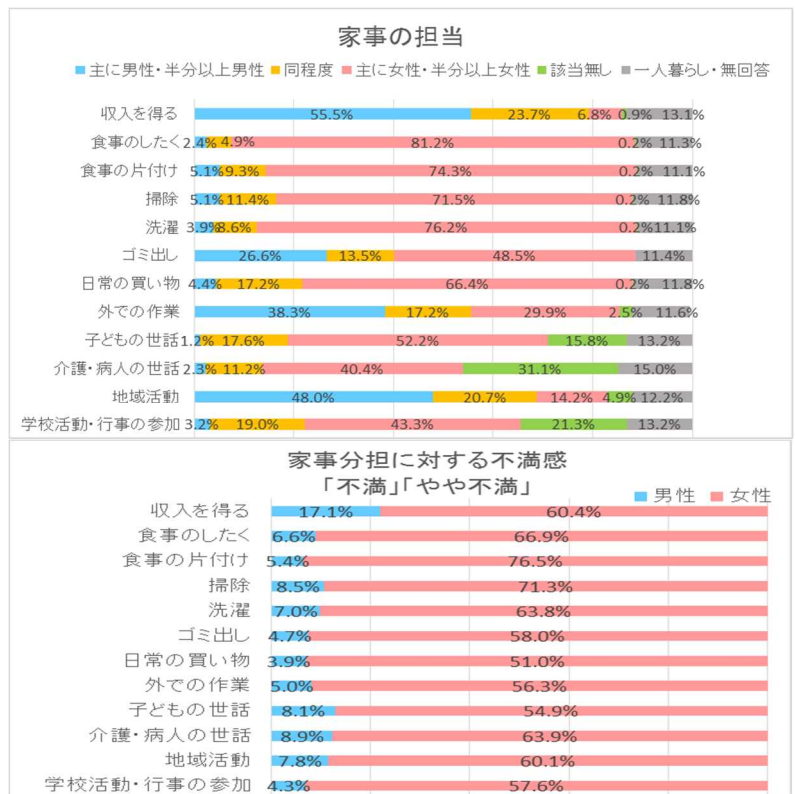
- 男女ともに上位に「職場の働きやすい環境整備」「各種制度の充実」「家族の理解を深める」が強く求められている。



□家庭について

◆家庭の仕事の担当

- 「収入を得ること」「地域活動」は、男性が約5割を占めている。
- 「食事のしたく」「食事の片付け」「掃除」「洗濯」「ゴミ出し」「日常の買い物」「子どもの世話」「介護・病人の世話」「子どもの学校活動・行事への参加」等、家の中で行う仕事や子ども・介護等の担当は女性が4割以上である。
- 特に「食事のしたく」「食事の片付け」「掃除」「洗濯」の家の中で行う仕事は、女性が7割以上、男性は1割以下と、女性の割合がとても高くなっている。



◆家事分担の満足感

- 男性は「収入を得る」以外の項目について不満派は10%未満であるのに対し、女性は全ての項目について5~8割弱が不満を抱えている。

◆家庭の仕事で、男性の参加が少ない理由

- 男女ともに「男性の仕事が忙しい等で、家庭に関わるための時間がない」「家庭の仕事は女性が行うという意識があるため」「男性が家事、子育て、介護等の知識や技術を持っていない」の3つが、参加の少ない理由の上位となっている。

□地域活動について

◆町内会や自治会で、企画や方針を決める場に女性の参画が少ない理由

- 男女ともに「家事等の負担が女性にかかっている」「男性優位の組織運営のため」が理由として多く、どちらも全体で4割以上となっている。
- 特に女性は「家事等の負担が女性にかかっている」が6割以上を占めている。

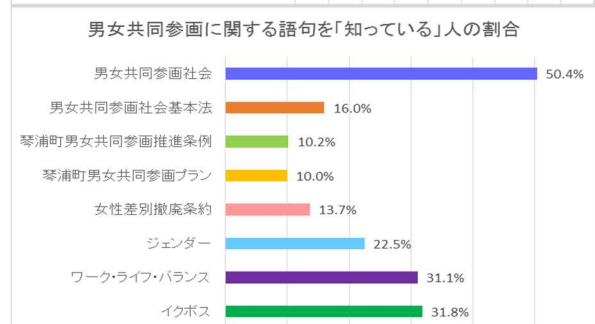
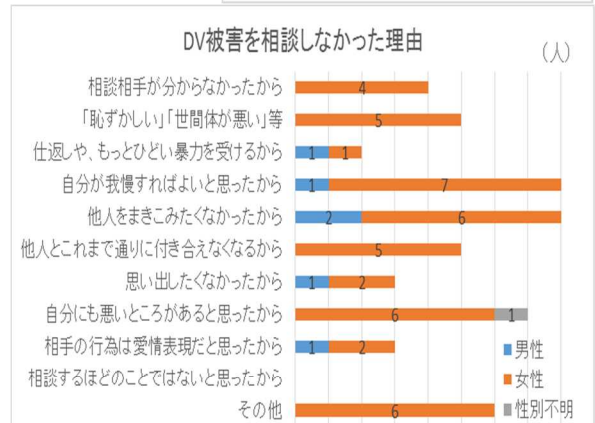
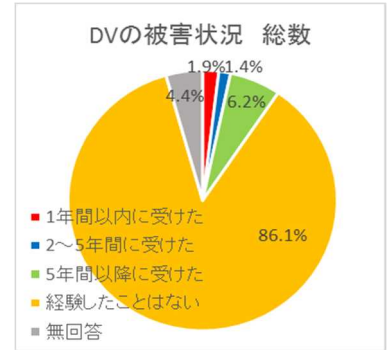
□ドメスティック・バイオレンス（DV）

◆DVの被害状況

- 男性は129人に1人、女性は約6人に1人が過去にDV被害を経験しており、この1年以内では男性0人に対し、女性は約26人に1人となっている。
- 女性は5割以上が、男性は全員が「相談していない」。その理由として、「自分が我慢すればよいと思った」「他人をまきこみたくなかった」の理由が、割合が高い。
- 「身近な人に聞いてもらえる環境」「同じような体験をした人からの助言や援助」「カウンセリングや日常相談などの心の援助」等の助けが求められている。

◆社会全体でDVをなくすために

- 「被害者が相談しやすい環境をつくる」「小さい頃からの男女平等の教育の充実」が重要だと考える人が4割以上となっている。



□男女が共に手を取りあう社会にしていくために

◆男女共同参画に関する語句の認知度

- 「男女共同参画社会」の認知度は約5割。
- 「男女共同参画」「琴浦町男女共同参画推進条例」「女性差別撤廃条約」「ジェンダー」「ワーク・ライフ・バランス」「イクボス」は、女性の認知度が高い。
- 「琴浦町男女共同参画推進条例」「琴浦町男女共同参画プラン」「女性差別撤廃条約」の認知度は約1割に留まっている。
- 「男女共同参画社会」「女性差別撤廃条約」「ジェンダー」は平成19年度よりも認知度が上昇している。

◆琴浦町で男女共同参画を進めるために

- 「家庭や学校における男女平等の普及」「仕事と生活の調和」が男女ともに強く求められており、その他「男女共同参画の普及」や「経営者・事業主に対する意識啓発」等についても力を入れていくべきである。